

# あとがき

本書の内容は、筆者が筑波大学に提出した学位論文と雑誌（学術雑誌と紀要）に発表した論文に基づいている。いずれも原文をそのまま掲載したものはなく、筑波大学出版会の査読者のコメントを参考にして、新しい統計資料による計算を加えたり、エネルギー効率の意義を論じる結論を設けたりした。産地の事例を扱う章では、構成を統一したり、エネルギー効率の変化を説明する項を加筆するなどの修正を加えた。また、共著で発表した論文については、他の執筆者に了解を得た上で、筆者が執筆・編集をした箇所に基づいて加筆修正した。各章と論文の一覧は、以下の通りである。

## [第1章～第4章]

1. Energy efficiency of crop production in Japan, 1970-1990. *Geographical Review of Japan*, **73B**, 2000年, 27-45.
2. Temporal and spatial changes of agricultural regions in terms of the energy efficiency of crop production. *A dissertation submitted to the Doctoral Program in Geoscience, University of Tsukuba, in partial fulfillment of the requirements for the degree of Doctor of Philosophy (Science)*, 2001年, 141p.
3. Changes in the energy efficiency of regional crop production in Japan. *Geographical Review of Japan*, **74B**, 2001年, 47-61.
4. 日本における作物生産の投入・産出エネルギーの算定. *人文地理学研究*, **27**, 2003年, 13-32.
5. 作物生産の投入産出エネルギー比による農業地域区分の試み. *人文地理学研究*, **28**, 2004年, 77-90.

## [第5章]

6. 千葉県旭市における施設園芸の維持システム. 筑波大学大学院博士課程地

球科学研究科修士論文, 1996年, 100p.

7. 千葉県旭市における施設園芸の維持と技術革新. 地理学評論, **71A**, 1998年, 661-678.
8. Technological innovations in the continuation of greenhouse horticulture in Asahi City, Chiba Prefecture. *Geographical Review of Japan*, **75**, 2002年, 324-343.

[第6章]

9. 長野県菅平高原における高冷地野菜栽培の特色. 地域調査報告, **25**, 2003年, 1-18. (上江洲朝彦, 手塚章と共著)

[第7章]

10. 笛吹市一宮町におけるモモとブドウ栽培. 地理 **51**(10), 2006年, 33-41.
11. 山梨県一宮町における果樹生産地域の特性. 地域研究年報, **29**, 2007年, 81-97. (浅井崇俊, 久保陽平, 村松美沙子と共著)

[第8章]

12. 茨城県ひたちなか市におけるサツマイモ生産・流通の地域的性格. 地域調査報告, **22**, 2000年, 133-169. (岡本友志, 藤永豪, 二村太郎, 大森祐美, 森本健弘と共著)

[第9章]

13. 仁平尊明 2007. 北海道十勝における大規模畑作農業の維持基盤. 人文地理学研究, **31**, 2007年, 39-74.

[結論] (書き下ろし)

また, これらの研究の遂行と本書での加筆・修正に際して, いくつかの研究費による助成を受けた. その内容は以下の通りである.

平成9～11年度: 持続的農村システムの形成における女性の役割に関する地理学的研究. 科学研究費補助金, 基盤研究(C), 課題番号09680152. 代表: 筑波大学教授地球科学系・田林明.

平成11～13年度: 日本における農作物の「転移」・拡散に関する実証的・生態地理学的研究. 科学研究費補助金, 基盤研究(B), 課題番号11480015. 代表: 筑波大学教授地球科学系・斎藤功.

平成 13～15 年度：日本における農村地理学の構築のための理論的・実証的研究。科学研究費補助金，基盤研究 (B)，課題番号：13480014。代表：筑波大学教授地球科学系・田林明。

平成 14 年度：長野盆地の地域変容に関する文化層序学的研究。筑波大学学内プロジェクト研究，研究助成 (B)，代表：筑波大学教授地球科学系・斎藤功。

平成 14 年度：GPS と GIS を用いた環境地図の作成。筑波大学学内プロジェクト研究，奨励研究。代表：筑波大学助手地球科学系・仁平尊明。

平成 15 年度：アメリカとの比較でみた野菜加工業者による産地の広域化に関する実証的研究。筑波大学学内プロジェクト研究，実地調査等。代表：筑波大学教授地球科学系・斎藤功。

平成 16 年度：諏訪盆地における産業構造変化に関する文化層序学的研究。筑波大学学内プロジェクト研究，研究助成 (B)。代表：筑波大学大学院生命環境科学研究科教授・斎藤功。

平成 16～平成 17 年度：九十九里地域における産業構造の変容に関する地理学的研究。東京大学空間情報科学センター共同研究，課題番号：62。代表：筑波大学大学院生命環境科学研究科教授・田林明。

平成 17 年度：首都圏におけるバブル経済崩壊後の地域変容に関する社会地理学的考察。筑波大学生命環境科学プロジェクト研究，研究助成 (B)。代表：筑波大学大学院生命環境科学研究科教授・山下清海。

平成 18 年度：首都圏外縁部における土地利用変化に関する文化層序学的研究。筑波大学生命環境科学プロジェクト研究，研究助成 (B)。代表：筑波大学大学院生命環境科学研究科講師・仁平尊明。

平成 16～18 年度：日本農業の担い手からみた農業維持システムの地域動態的研究。科学研究費補助金，基盤研究 (B)，課題番号 16300291。代表：筑波大学大学院生命環境科学研究科教授・田林明。

平成 19～22 年度：商品化する日本の農村空間に関する人文地理学的研究。科学研究費補助金，基盤研究 (A)，課題番号：19202027。代表：筑波大学大学院生命環境科学研究科教授・田林明。

平成 20 年度：地理空間情報データベースの構築とクリアリングハウスの設計 — 学術研究と GIS 教育の支援を視野に入れて —。平成 20 年度生命環境科

学研究科教育研究活動支援経費. 代表: 筑波大学大学院生命環境科学研究科教授・村山祐司.

平成 22 ～ 25 年度: フィールドワーク方法論の体系化 — データの取得・管理・分析・流通に関する研究 —. 科学研究費補助金, 基盤研究 (A), 課題番号: 22242027. 代表: 筑波大学大学院生命環境科学研究科教授・村山祐司.

最後に、フィールドワークでお世話になった皆様、論文の作成を指導してくださった教員と学友の皆様、および、研究資金の助成を頂いた組織の皆様に御礼を申し上げます。また、長年にわたって筆者の研究を指導してくださった長野大学の斎藤功教授(筑波大学名誉教授)、および、本書をまとめるに際して数々の助言をいただいた筑波大学の田林明教授に御礼を申し上げます。

2010 年 12 月 仁平尊明